

キンリョウヘン 金稜辺 金陵辺

Cymbidium シンビジューム属の中の一つの原種 地生種または着生種

学名 Cymbidium floribundum シンビジューム フロリバンダム

Cymbidium pumilum シンビジューム プミラム

個体名として 白玉（しらたま）・富士（ふじ）・神代（じんだい）・玉輝（ぎよつき）・池田錦（いけだにしき）・黄金錦（こがねにしき）・千代田錦（ちよだにしき）・芙蓉錦（ふようにしき）など

Cymbidium floribundum album シンビジューム フロリバンダム アルバム

Cymbidium floribundum aureum シンビジューム フロリバンダム オーリウム

◎シンビジュームの株が素晴らしく良く出来たのに花が咲かない！

水やり・芽かきに問題あり！ 鉢の大きさ・肥料の量は順位が低い大切です。

◎シンビジュームはウイルス病(シンビジュームモザイクウイルス・タバコモザイクウイルス等)に伝染(感染)しやすい！

ウイルス病に効く薬はない！治らない！捨てるか焼却する。

株分けや移植時（はさみ・ナイフ・鉢・植え付け材料の再使用）に接触感染！

切り花時に用具の汚染による感染！

根の水洗時の溜め水による伝染！

散水によって鉢底からの流出する水に含まれるウイルスによる伝染！

病気株の消却または隔離栽培

植え替え時の接触伝染の予防

用具の消毒法

鉢の消毒

虫媒伝染を防ぐ為に虫の駆除

開花中（冬から春に購入した開花株）の管理

水やりは植え込み材料が乾いたら与えます。開花中の水切れは注意しますが、真冬の水の与え過ぎにも注意してください。肥料は与えません。

花芽が伸び出しの時は水が意外に多く必要です。

置き場

5月から10月までは**野外**で遮光ネット30%～50%ぐらい遮光して育てます。薄霜が降りるようになれば**室内**の**できるだけ日当たりのよい場所**に置きます。

す。つぼみや花が咲いている時期に2度以下の低温、25度以上の高温にさらされると花やつぼみに害がでる（開花しない場合あり）ので注意します。

5月から10月までは野外栽培で遮光ネット30%~50%ぐらい遮光する。遮光ネットは市松模様が良い。カラミ編みネット、網ネットはあまり良くない。

水やり

生育期の春から秋は植え込み材料の表面が乾けば与えます。夏はよく乾くので毎日の水やりになります。冬はやや控えめに、表面が乾いた翌日~翌々日に与えるぐらいにします。一週間~10日に一度ぐらい。冬の水の与えすぎは根腐れする事があるので注意してください。

春から秋までは毎日の十分に水やりをする。雨の日、夕立の日、以外は夕刻に水やりを行います。

（私は5000倍の液体肥料を水として毎日、散水しています。）

肥料

比較的、肥料を好みます。4月~7月頃まで骨粉入りの固形油粕（発酵）など置き肥をして、5月頃の新芽が出る時期から10月頃まで週に1回ぐらい液体肥料（1000倍~2000倍）を与えます。

シンビジュームは肥料負けしないので薄い肥料を、どんどん与える。

固形油粕（発酵している物を必ず使用）は一カ月位しか効か無い。毎月新しい物に変える。

植え替え時期

2~3年に1回を目安に植え替えます。時期は花後の**新芽が伸び始めた頃に行います。**通常4月頃に行いますが、まだ花のついている株は5月まで待つて行うか、花を切り花として切除後に植え替えを行います。

コンポスト

用土は水苔、バーク、軽石、等、また軽石やバークなどが混ぜた洋蘭の土（ミックスコンプスト）などを使用します。用土は以前、バークと軽石などが入った洋蘭の土に軽石を混ぜたものを使用していました。

今では**バークだけで大丈夫です。**多くの生産農家もそうしています。

バークは Orchiata ネオソフロン コンテナー という名前で販売されています。

私は所沢植木鉢センター本店で購入しています。

今日はバークだけで使用します。

バークとはニュージーランドのラジアターパインの樹皮を発酵させた物です。

Orchiata # 9は粒の大きさは6mm-9mmです。

白いものはドロマイトと言い、ペンシリン系の菌です。（大変よい菌ですので、洗わずにお使いする事をお勧め致します）防腐剤は入っていません。

Orchiata # 9	◎	
ネオソフロンα	S	◎
コンテナガード	S	◎
ガーデンバークチップ		○
クルミチップ		○
ココナッツチップ		×
ベラボン プレミアム (ヤシの実)		×
洋らんバーク (ココナッツの実)		×
洋らんの培養土 (ココナッツの実)		×

用土の再利用は絶対してはいけません。

鉢

鉢はプラ鉢やビニール鉢で行います。素焼鉢は乾きやすい・重たい・割れる等の理由で生産農家では使う所は少なくなっています。小さめの鉢で**新品を使用します**。再利用は出来るだけしない。再利用する場合はキッチンハイターなどで漬け置き洗い後に使用する。

株分け

植え替え時に大きくなった株は株分けをして増やす事ができます。株分けは3バルブ以上で一株とするように株分けをします。時期は花後に行います。方法はバルブをできるだけ大切に包丁などで丁寧に切り分けます。切り分けた際、葉の出ていない枯れたバルブは取り除きます。枯れていないバルブは養分があるので取り除きません。株分け後は1週間ぐらい半日陰で管理します。

私・親父・祖父のバルブを残す。枯れていなければ、たくさん残す。

春の芽かき

花後から5月になったら、**一つのバルブに1芽だけ伸ばす**よう、他の葉芽は取り除きます。例えば5号鉢に花が咲いたバルブが3つあれば、新しく出てきた3芽だけを残すようにします。そうすることで花芽を着きやすくします。

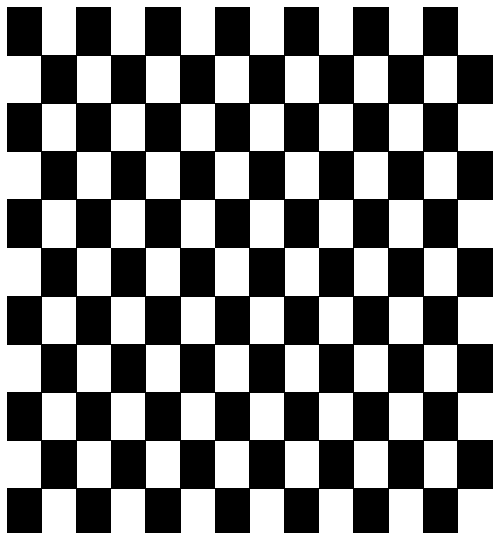
月(30日)に一度か、45日に一度は必ず芽かきをする。

秋の芽かき

10月から11月頃には花芽が出て来ます。花芽を残して、1芽だけ伸ばした葉芽以外は全て取り除きます。そうすることでよりよい花を咲かせるようにします。花芽と葉芽はとても似ているので、解らない場合は葉の先が分かれていますので葉芽だと見分けが付いてから取り除きます。葉の先が分かれています見分けるには、花芽は厚く丸っこい事、葉芽は平たい事で見分けられます。

解らないときは、11月以後は芽かきをしない。

市松模様ネット 30%~50%



[HOME](#) > [商品案内](#) > [ロング・エコロング](#)

ロング・エコロング

LONG,ECOLONG

作物の生育にマッチした養分の供給！コーティング肥料(被覆肥料)



作物の生育に合わせて、肥料成分の溶出を調節するコーティング肥料が「ロング」「エコロング」です。「ロング」「エコロング」は、主にポリオレフィン系樹脂と無機鉱物などの材料で特殊加工した膜で粒状の硝酸系化成肥料(硝酸アン加里、NK化成、硝酸石灰など)を被覆した肥料です。また、「エコロング」の被膜は光崩壊性と微生物分解性を持っています。

肥料成分の溶出の機構と温度に対する溶出特性は、尿素を被覆した「LPコート」や「エムコート」と同様で、土壌pHおよび土壌水分の影響をほとんど受けません。

一般的な畑作物によく効く硝酸態窒素を含みます。肥効が持続しますので基肥だけの栽培ができます。また、局所施肥により肥料の利用効率が高まり、減肥が可能になります。

溶出タイプは、施肥直後から溶出が始まる直線(リニア)型と、初期の溶出が一定期間抑えられた後に溶出が始まるシグモイド型(スーパー(エコ)ロング、スーパーNK(エコ)ロング)があり、25℃の土壤中窒素が80%溶出する日数を名称に用いています。肥料成分(チッソ、リンサン、カリ)や、溶出日数、溶出タイプの違いにより畑作物の多くの用途にマッチした銘柄を選択できます。

※ロング エコロング はジェイカムアグリ登録商標です。

今日、配布しました「エコロング」は424-180です。